

ウクライナに心のケア拠点

埼玉大とポルタワ大 オンライン開所式

埼玉大は、ロシアから侵攻を受け続けるウクライナのポルタワ国立教育大とともに、同大に日本の精神療法を用いて戦争で傷付いた人々の心をケアする拠点を開設した。現地では2日、両大をオンラインで結んだ開所式があり、ウクライナの教員や学生たちは終わりの見えない戦争に苦しむ人々の心が救われるように期待を寄せた。

(菅原洋)



埼玉大とのオンラインの開所式に参加するポルタワ大の教員や学生たち

「ウクライナ国民は恐怖、不安、ストレス、感情の波を経験している。疲労と精神的な消耗も蓄積して非常に困難な時期を過ごし、即時の対応が必要だ。不条理な世界に生き、トンネルの先にまだ光は見えない」。開所式のスピーチで、ケアの拠点で運営責任者を務めるポルタワ大のオリハ・ニコレンコ教授は胸の内を明かした。

その上で「日本の皆さまの温かい手と思いやりに満ちた心を感じている。ウクライナに再び太陽が昇り、平和な空が広がると信じたい」と思いを込めた。

大学があるポルタワは激戦区に近いロシア寄りの中東部に位置し、ミサイルなどの攻撃や兵士たちの犠牲が続く。大学の近くには軍や市民の病院、子どもの保護施設がある。

拠点にはメインルームと別室があり、両大の教員たちが協力して、地域住民に

心のケア拠点のメインルームで開所式に参加するポルタワ大の教員や学生たち＝いずれもウクライナで(趙丹寧准教授提供)



よるグループ活動や公開講座を開いたり、国内各地の学生を対象にした教育活動、教員向けの心理学研修などを実施したりする。明治・昭和期の精神科医森田正馬が始めた「森田療法」を用いて、戦争で傷付いた人たちの心のケアにあたる。同療法は不安や悩みに振り回されず、自然な感情として「あるがまま」に受け入れ、自分らしい生き方につなげる。このため、心のケア拠点は「森田パーク」と名付けられた。

両大はロシアの侵攻が始まる前年の2021年、埼玉大の野中進教授とニコレン

戦争の苦しみに日本の精神療法活用

コ教授を橋渡し役として、学術交流協定を締結。23年からは埼玉大の趙丹寧准教授の提案にニコレンコ教授が応じ、ウクライナ各地の教員らがオンラインで参加する森田療法の勉強会を開いている。埼玉大では昨年、ニコレンコ教授らを招いた国際シンポジウムが開催された。

開所式で、心のケア拠点の創設学術責任者を務める趙准教授(心理学)は「極めて困難な状況にあっても、日々の小さな一歩が希望を持って生き続ける助けとなる。拠点で皆さまを支えたい」と意欲を見せた。

埼玉大の重原孝臣学長はビデオメッセージを寄せ、「戦争という過酷な状況にあるウクライナの皆さまに私たちは連帯の意を表したい」とあいさつ。心のケア拠点に資金援助している「メンタルヘルス岡本記念財団」の岡本信夫理事長は「極限下にいるウクライナの皆さまに重要な心理支援体制を目指したい」と述べた。

開所式には、ポルタワ大のマリナ・グリノヴァ学長ら教員たちや埼玉大に留学した学生たちも参加した。